平成21年5月21日から 裁判員制度が始まります

裁判員制度は、国民から選ばれた裁判員が、刑事裁判に参加する制度です。6人の裁判員と3人の裁判官は、ともに刑事裁判に立ち会い、被告人が有罪か無罪か、どのような刑にするかを判断します。

高知地方裁判所では、「裁判員制度」に理解を深めていただくため、

①出張説明会
②裁判傍聴・法廷見学
③ビデオテープ・DVD（制度説明やドラマ、中高生向けアニメ）の貸出し

をご案内しています。勉強会や研修会等にご利用ください。

【問い合わせ先】
〒780－8558
高知市丸ノ内1－3－5
高知地方裁判所事務局総務課庶務係
☎088－822－0340（内線606・607）

市民のひろば

まちの声

◆卓球台を探しています

市立宝町体育館で老若男女がラージボール卓球を楽しんでいます。現在、卓球台が10台あり、あと2台不足しています。

厚かましいお願いですが、ご家庭や職場で既に使用されていない卓球台がありましたら、寄贈いただけませんか。連絡をいただき次第、即参上いたします。

【連絡先】
林正康 ☎53－4896
（うららか卓球部）

◆講習会にお越しください

【日時】10月26日（日）14時～16時
【場所】鏡野中学校体育館
【講師】下田真理子氏（NPO青少年メディア研究協会 ねちずん村）
【演題】「ケータイ・インターネットの危険性」（仮称）

（鏡野中学校）

◆別役診療所（トイレ）をご利用ください

物部町岡ノ内から別役へ向かう林道の途中にある小松神社の前に〝別役診療所〟と名付けたトイレを建設し、小松神社へ寄贈しました。もともと、私は物部町別役の出身でもあり、いろんな人からこの辺りにトイレがあれば、という声を聞いたので今回このようにしたところです。小松神社へ参拝される方や、奥へ向かう方に利用していただければと思います。

（土佐山田町楠目 宗石大榮）

神氏ちゃん その14

作：山﨑茉紀・宗石真奈
（山田高校マンガ部）

◆まちの声・まちの風景（写真・イラスト）を募集◆

・住所・氏名・年齢・電話番号（または連絡方法）を明記してください。なお、誌面の都合で掲載できない場合があります。
・『まちの声』の字数は400字以内（最低字数制限はありません）。なお、趣旨を変えない範囲で直すことがあります。
・『まちの風景』の大きさは、写真・イラストいずれもハガキ大以内。

【投稿先】〒782－8501 香美市土佐山田町宝町1－2－1
香美市役所企画課内広報委員会事務局
FAX53－5958 メールの場合は市ホームページから

香・美・人⑰

岡本　源馬さん（82歳）（土佐山田町東本町）

ＪＲ土佐山田駅前の交差点にある香美屋の店主であり、昭和から平成までの商店街の姿を見守り続けてきた岡本源馬さんを紹介します。

◇　◇　◇

《少年・青年時代》

岡本さんが生まれたのは大正15年。昭和の始まりとともに人生を歩んでこられました。

現在の香美屋は食料品店ですが、岡本さんが子どもの頃は料理・仕出し屋を営んでいました。よく父親に言われて、下足番や弁当の配達などを手伝っていた、と懐かしそうに話してくれました。

18歳になると、戦時中であったため学徒動員され、20歳の時には広島の大竹海兵団に入団しました。兄を戦争で亡くされた岡本さんは、敵討ちだと戦争に身を投じましたが、まもなく終戦となりました。今の香美屋を始めたのは復員後すぐの昭和20年のことです。もともと仕出し屋をしていた際も、缶詰や魚を売っていたそうで、それを続けようと思いお店を始めました。

《商店街を見つめて》

その頃の商店街は、「人も多くおったき。山田の繁華街やったき。八王子の神祭のときなんかは、人の波ができるくらい。今とは大違い。あの商店街がこんなになるとは思ってなかった。店が減って人が来なくなる、そしたらまた店が減る。時代の流れやき仕方がないね」と少し寂しそうに教えてくれました。

最近では、朝から夕方までお店を開けてもお客さんは2、3人しか来ない。そんな状況の中でも、お店を続けているのはいろんな人の励ましの声があるからだそうです。

「いつも帰りに店の前を通る女の人から、『山田に帰り着いて、このお店が開いちょったらホッとする。おじさん、やめんといてよ』と言うてもろうた。前を通る小学生も朝と帰りにいつも声をかけてくれる」とうれしそうに話してくれました。

毎日、朝から夕方までお店に出ている岡本さん。健康の秘訣をお聞きすると〝一番は運動〟で、常に体を動かすことを心がけているとのこと。「倒れるまで店は続ける」とはりきっていました。これからも商店街の寂しさを吹き飛ばすくらい、元気に頑張っていただきたいと思います。

ただいま留学中⑰

マルク・ミリアン（スペイン・バレンシア市）

私は高知工科大学大学院フロンティア工学コース修士2年生です。廃棄場ゴミ削減について研究しています。

私は写真撮影が好きです。写真展に入賞するような才能や技術はないし、片時もカメラを離さないという訳でもないのですが、友だちを待たせていらいらさせても写真を撮りたいぐらい好きです。留学のためのたくさんの書類を書きながら、デジタルカメラ選びに夢中でした。私の行き先ははるか遠いあこがれの日本ですから、間違ったカメラ購入は絶対に避けたかった。

どうしてそんなにこだわるのか。日本は特別なのか。スペインでの私の観察ですが、日本人は写真を撮るのも撮られるのも好きだし、老若男女、高性能のリフレックスカメラで撮っています。それより私にとって日本は絶えず撮影チャンスをくれる所なんです。雄大な自然、印象的な建造物、古寺、一番素晴らしいのはそこに暮らす人々。高知県はこれらすべてを持っています。持っているだけでなく、それらが季節ごとに新しい情景を見せてくれます。春の桜、秋の紅葉、寒い時期の澄み切った景色、そして高知の夏、よさこい祭りの弾けるバイタリティー。ずっと住んでいる人には当たり前の景色かもしれません。先月、久しぶりにスペインに帰って、私もふるさとの良さを見直しました。私の経験からですが、レンズを通して故郷の美しさを再発見すると思います。